

ふるさと納税で図書館児童資料 の充実にご協力をお願いします

寄附のお願い

堺市立図書館では、乳幼児から青少年期まで子どもたちが読書に親しむための事業や保護者への啓発活動を実施しています。次世代を担う子どもたちのため、絵本を中心とした児童資料の充実をはかることで、親と子が絵本をとおしてふれあい、子育て世代同士の交流となる場をつくるため、寄附を募集することとなりました。

活用方法について

皆さまからいただきました寄附金は、絵本などの児童書を充実し、子育て中の保護者を支援するための事業に活用します。



・0歳児から5歳児の図書を購入、パックにして、身近な公共施設や地域の子育てサークル、子ども文庫などの団体に貸出をします。

・乳幼児とその保護者が集まるイベントなどで絵本を展示して自由に手に取ってもらう「えほんのひろば」を開催し、図書館職員やボランティアが、子どもたちに読み聞かせを実施します。

寄附の手続きのご案内について

1. 下記から「図書館児童資料充実事業指定寄附金 寄附申込書」をダウンロードの上、必要事項を記入し、中央図書館総務課あてに郵送またはファックスでお送りください。
2. 中央図書館総務課で受付後、後日「納付書」を郵送いたします。
3. 「納付書」にて、お近くの金融機関の窓口で納入ください。クレジットカードでお申し込みいただくことも可能です。詳しくは図書館ホームページ（<http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/oshirase/lib-furusato.html>）をご覧ください。

シリーズ

堺の〇〇 黒姫山古墳

美原区・黒山にある黒姫山古墳は、百舌鳥古墳群と古市古墳群の中間に位置する全長114m、高さ11.6mの前方後円墳です。造られた時期は大仙（山）古墳（仁徳天皇陵古墳）とほぼ同じと考えられ、昭和32（1957）年、国の史跡に指定を受け、昭和53（1978）年に古墳の外の回り部分が追加指定されています。



『堺の文化財 百舌鳥古墳群』
2014年 67ページ「黒姫山古墳遠景（平成2年頃）」
堺市博物館 提供

昭和22（1947）年、末永雅雄博士らによる第1次調査で前方部から竪穴式石室が発見され、中から24領の甲冑（【甲：よろい、冑：かぶと】）をはじめ大量の鉄製武具や武器が出土しました。この24領の甲冑は、ひとつの古墳の出土

量では国内最多で、国内出土甲冑の約5%になるそうです。古墳の被葬者が埋葬されていたとみら

れる後円部墳頂は、発掘調査のときには既に盗掘され、詳細を知ることはできませんが、この地域の有力者である丹比氏^{たじひ}によって築造されたと考えられています。また墳丘には葺石^{ふきいし}が敷設され、埴輪^{はにわ}が列をなしてめぐらされた古墳であったことがわかっています。

こうして大量の鉄製武具や武器が発掘されたことから、この地に高い鑄造技術があり、中世以降において隆盛をほこった河内鑄物師の集団につながると考えられます。



同書 66ページ「黒姫山古墳出土甲冑群」堺市立みはら歴史博物館 蔵

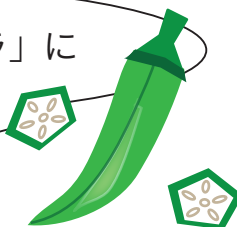
現在、出土した甲冑は保存処理を終え、堺市立みはら歴史博物館でその一部が展示されています。

【参考文献】

1. 『黒姫山古墳発掘調査概要』大阪府教育委員会・美原町教育委員会 1989年
2. 『美原町史 第1巻』1999年
3. 『黒姫山古墳とその時代 ―古市古墳群の小規模古墳―』M・Cみはら 2003年
4. 『百舌鳥古墳群と黒姫山古墳 堺市・美原町合併記念秋季特別展』堺市博物館 2005年



今回は、野菜のひとつ「オクラ」についての質問をご紹介します。



○ 野菜の「オクラ」の原産国を知りたい。

オクラについて一冊丸ごと取り扱った本として、子ども向けの本ですが『オクラの絵本』（むらかみ つぎお／へん 農文協）があります。こちらに、オクラのふるさととはアフリカの北東部と考えられていますが、まだはっきりとわかっていないこと、ウガンダ、スーダンなどの白ナイル川の流域に野生のオクラが生えていることから、このあたりがふるさとと考える説もあることが紹介されています。



○ 「オクラ」が、“アメリカネリ”ともよばれるのはなぜ？

『日本の野菜文化史事典』（青葉 高／著 八坂書房）では、18世紀にアフリカからアメリカを経由して、日本には幕末期に渡来したとあります。命名はアメリカから渡来したことによるもので、“ネリ”はトロロアオイ（黄蜀葵（おうしょくき）、タモ）と説明されています。また『野菜・山菜博物事典』（草川 俊／著 東京堂出版）では、渡来したことがわかる資料として明治6年（1873年）刊行の『西洋蔬菜栽培法 開拓使蔵版』をあげています。

ちなみに、現在使われている“オクラ（OKRA）”という名は英語で、『西洋野菜料理百科 野菜の博物誌』（ジェイン・グリグソン／著 河出書房新社）では、黄金海岸のトゥィ語の“ンクラマ”から変化した言葉と書かれています。



潮湯浴（しほゆあみ）とは、海水を沸かして温浴することです。堺は海に近く、海水温浴場があったので、平安時代に熊野信仰が盛んになると、多くの人々が堺に潮湯浴に訪れるようになりました。また、『堺鑑』には、行基が堺の海辺に井戸を掘り、石像の薬師如来を安置すると如来の胸から清水が沸きでてこれをお風呂にに入れて入浴すれば万病が治ったという潮風呂伝説が記録されています。

その後、大正時代にも潮湯がブームになりましたが、現在は大阪府内では出島海岸通にある湊潮湯1軒だけです。

参考文献

- 『堺市史』第1巻 堺市役所／編纂 1930
- 『堺の歴史』関英夫／著 山川出版 1975
- 『むかしの堺』別所やそじ／共著 はとぶえ会 1976
- 『堺歴史散歩』徳永真一郎／著 1977
- 『堺鑑』小谷城郷土館 1977
- 『大阪春秋 第16号』新風書房 1978
- 『フォーラム堺学 第8集』堺都市政策研究所 2002



司書の



押し



『清冽 詩人茨木のり子の肖像』 後藤正治／著 中央公論新社



この本は、詩人・茨木のり子の伝記である。茨木は1926（大正15）年生まれ、医師である父の方針で、向いてないと思いながら帝国女子医学・薬学・理学専門学校の薬学部に入學。学徒動員のため海軍療品廠で就業中に資格は得るが、戦争でろくに勉強

できなかった上、自称劣等生だったため、この資格は一生使わなかった。

20歳のとき、自分に文学の才能があるかを父親に実証してみせるため、読売新聞主催の戯曲募集に応募、選外佳作に選ばれる。いくつかの戯曲や童話を創作するも、「台詞の言葉がなぜか物足りないものに思えてきた」と、詩という表現ジャンルを選ぶ。詩誌への投稿から始め、同じく投稿者であった川崎洋と同人誌『權』を創刊。やがて谷川俊太郎、吉野弘、大岡信、岸田衿子らが加わる。

茨木のはじめての詩集『対話』は、1955（昭和30）年29歳の時に刊行された。版元は不知火社。部数400部がさっぱり売れず、不知火社はこの1冊で消滅している。第二詩集『見えない配達夫』には、後に国語の教科書に載って広く知られるようになる「わたしが一番きれいだったとき」が掲載されている。一度しかない若く美しい時代を戦争で失い、価値観も何もかもがらりと変わってしまったときのことを詠んだこの詩は、19歳の一番きれいだったと

きに、街は崩れ、たくさんの人が死に、おしゃれのきっかけを落とし、ふしあわせだったと嘆いているが、最後にだから長生きすると宣言している。

第五詩集の表題にもなった「自分の感受性くらい」は、好きなものは好き、嫌いなものは嫌いと個人の感性こそ生きる軸になるものという思いからつくられた詩で、「自分の感受性くらい／自分で守れ／ばかものよ」という最後の言葉にどきりとする。ただし、この「ばかものよ」は、茨木自身に向かって投げかけられた言葉である。

茨木が一躍有名になるきっかけとなったのは、詩集『寄りかからず』。1999（平成11）年茨木が73歳の時に発刊。できあいの思想にも宗教にも権威にも寄りかかりたくない、寄りかかるとすれば椅子の背もたれだけという潔い詩は、朝日新聞の天声人語に紹介されたこともあり、詩集としては破格の15万部を超えるベストセラーになった。

2006（平成18）年、くも膜下出血のため死去。享年79歳。茨木のり子の詩は、ごく日常の生活風景をとらえ、難解ではなくわかりやすい言葉を使って綴られていることや生き方について示唆してくれることが、死してなお大勢の人にその詩が愛されている理由のひとつだろう。この本で茨木のり子の人生を知ると、必ず詩集が読みたくなるはず。

関連図書

『茨木のり子全詩集』 茨木のり子／著 花神社
『茨木のり子集 言の葉』 全3巻 茨木のり子／著 筑摩書房
『茨木のり子詩集』 谷川俊太郎／選 岩波書店
『茨木のり子の家』 茨木のり子／詩 平凡社

☎ 堺市立図書館電話番号一覧 ☎

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター・舩松人権歴史館	
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
中図書館	270-8140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111		

ホームページ URL <http://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>